

## 1 重点検討事項の検討経緯

- コロナ禍の中、文化芸術活動の停滞や活動の維持が難しくなったことで、文化芸術関係者が転職したり、活動をやめる者もあり、中断した文化芸術活動を復活させることは難しい。
  - そこで、文化芸術関係者を対象とした実態把握調査を実施。  
→「活動資金」、「広報・PR」、「活動・発表機会」、「ネットワークづくり」に課題を感じていることを把握。
  - 文化芸術関係者の転職や活動中止は、文化芸術活動に触れる場の減少や、文化芸術の魅力発信の後退になり、滋賀の文化芸術の衰退（県民が文化芸術を享受できる場の衰退）につながる。
- ➡文化芸術関係者の持続的な活動に向けた支援のあり方の検討が必要。

## 2 文化芸術に関する現状・課題

- 文化芸術活動においては、文化芸術関係者の高齢化による担い手不足、少子高齢化や文化芸術の多様化による鑑賞者等に減少により、活動を持続することが難しい状況。
  - 一方、県内には、文化芸術活動を支援する資源（相談窓口、活動場所、補助金制度、寄附制度、情報発信など）や、文化芸術活動を支援する団体（地域の文化ホール、文化芸術以外の分野、民間企業など）があるが、十分に認知されておらず、文化芸術活動とつながれていない。
- ➡文化芸術活動を支える資源や団体を活用し、県内全体で、文化芸術活動を支援する仕組みが必要。

### 3 県の取組

#### (1) ネットワークの構築

ア) 文化芸術と他分野(観光、福祉、まちづくり、国際交流、教育など)、支援する団体との情報共有、交流

→ 文化芸術活動を支援する資源や団体の洗い出し

＜資源の一例＞

相談窓口、活動場所の提供、補助金(助成金)の案内、人材育成、顕彰制度、文化財の指定制度、情報発信、など

＜団体の一例＞

県、市町、地域の文化施設、民間団体、自治会・子ども会、教育機関 など

→ 文化芸術活動と他分野との連携の可能性を共有

⇒ 文化芸術と連携するプログラムをコーディネートする人材の育成

↳ 県内各地で、  
文化芸術と連携するプログラムをコーディネートする人材を輩出

#### (2) 文化芸術活動を支援する資源・団体と文化芸術活動のマッチング

ア) 文化芸術関係者への相談対応

→ 文化芸術関係者のニーズ把握

イ) 資源・団体の洗い出し、掘り起こし、開拓

→ 資源・団体の見える化、企業等への働きかけ

⇒ 資源・団体と文化芸術活動のマッチング

＜例＞活動の情報提供、活動資金の提供、活動のアーカイブ化など

#### (3) 公募型助成事業を通じた伴走型支援

ア) 文化芸術プログラムの開発

イ) アドバイザーの育成

ウ) 支援者(資金援助者)の獲得

↳ マッチングや伴走型支援の仕組みを構築、各地のコーディネーターに共有し、  
県内各地で、文化芸術活動を支援体制を構築